

歴博 ぐらしの植物苑だより

第9回日本の植物文化を語る 8月26日(土) 13:30～ 本館講堂 入場無料
『近世の園芸文化—その仕掛け人と作り手』 小笠原亮 (名古屋園芸)

ぐらしの植物苑の活動：毎月第4土曜日 13:30～

奇数月 ぐらしの植物苑観察会 13:30～ 東屋集合 テーマに基づく講演，苑内案内

偶数月 日本の植物文化を語る 13:30～ 本館講堂 入場無料

ぐらしの植物苑だより：トピックスと見どころ 毎週更新

ぐらしの植物苑ホームページ：苑内の見どころ 毎週更新 歴博ホームページからリンク

<http://www.rekihaku.ac.jp>

今回は、2005年に歴博で発見された突然変異体「無弁花」を紹介します。解説パネルから

花のつくりを決めるー 3つの遺伝子の組み合わせ

花は基本的には、がく，花弁，おしべ，雌しべからなります。

これらはA, B, Cの3つの遺伝子の組み合わせによって決まります。これをABCモデルといいます。

Aだけならがく，A+Bで花弁，B+Cでおしべ，Cだけなら雌しべになります。

丸咲きなどのアサガオはがく，花弁，おしべ，雌しべからなります。



写真の牡丹咲きはC遺伝子の機能がそこなわれ，おしべと雌しべが形成されません。がくと花弁，そして，本来おしべ，雌しべのある中心にがくと花弁ができ，牡丹咲になります。

無弁花はB遺伝子の機能がそこなわれ，花弁とおしべが形成されません。がくと，花弁ががくに，おしべが雌しべにと変化しています。がくが5枚，花弁ががくになったがくが5枚，小さい雌しべが5本，正規の雌しべが1本あります。



無弁花牡丹はB遺伝子とC遺伝子の機能がそこなわれ，花びらとおしべ，めしべが形成できません。花ノ各器官がすべてがくとなる多重変異です



ABCモデルは1990年にマイエロヴィッツのグループが提案した花の花形態形成モデル



南部金甜瓜 ウリ科

縞の入るマクワウリで生食ができます。東北地方で主に作られ、栽培にも強く 豊産種です



黄香瓜 ウリ科

中国で栽培されていた、黄色のマクワウリで、元大阪府立大学の藤下典之先生によって、採取されたものです。



モルディカメロン ウリ科

モルディカメロンは、水分が少なく、粉質で、慌てて食するとのどをつめるので、別名ババゴロシといひます。今では八丈島、長崎の福江島くらいしか栽培されていません。

藤下先生がこのウリを見つけるまで経緯は図録『海をわたった華花』に詳しくでています。



小姫瓜 ウリ科

白い球形のヒメウリで、新潟(新津市)では、お盆の飾りに、小姫瓜、ホウズキ、ヒメリンゴ、ジュウロクササゲ、などを、それぞれ1種類紐でくくり、上から吊るしてお供えにします。



金俵甜瓜 ウリ科

黄マクワ愛称で、最近までよく食べられていた品種です。俵形のマクワウリで収穫量も多いです。



小越瓜 ウリ科

台湾で栽培されていた、漬物用のウリで、藤下先生によって採取されたものです。